

ダイハツ九州株式会社

障がい者雇用に取り組む企業を「ともに働く職場」として紹介するコーナーです。第2回は、様々な障がい者雇用の取り組みをすすめているダイハツ九州さんをご紹介します。

中津市にあるダイハツ九州株式会社は、一昨年60周年（前身であるダイハツ車体（群馬県前橋市）と通算）を迎えダイハツグループの軽自動車、軽商用車などの約80%を生産しています。

“より良い車づくりを追求し「世界一のスモールカーメーカー」を目指します”を企業理念とし、お客様の生活のパートナーとしての軽自動車を高品質・低価格で提供。環境負荷の少ない軽自動車をより環境負荷の少ない工場で生産し続けるために、その基礎となる人材育成と風土醸成に力を入れています。ダイハツ九州では、障がい者の可能性を引き出し、誰もが分け隔てなく働ける環境づくりを目指して、障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。



障がい者とともに歩むためのチャレンジ



ダイハツ九州には、障がい者の方たちが行う部品組立などの作業を集約した部署「スマイル工程」があり、現在9名の知的障がい者の方が働いています。これまで障がい者の配属先は製造現場がメインでしたが、さらに障がい者の活躍の場を拡げるため、事務職や企画部署での採用も始めました。「障害者雇用は以前から取り組んでいましたが、2018年頃に社内の障がい者雇用率が下がったこともあり、取組を強化する必要がでてきました。まずは障がい者の方たちを知ってもらうため、自社の役員向け障がい者勉強会や社員向けオンラインセミナーを実施しました。また宇佐市にある障害者就業・生活支援センター(※P5参照)『サポートネットすまいる』と連携して求人活動や就職後のサポートをすることで2021年度には障がい者雇用の法定雇用率を達成し、社内でも障がい者雇用に対する理

解が広がったと感じています。」(総務人事部・垣迫聖章さん)

『サポートネットすまいる』との連携により、それまで会社だけではフォローできていなかった障がい者へのサポートを強化。仕事面だけではなく、就職後の生活面もサポートしてもらうことで離職率が低下しました。ただ、社内で働く障がい者が年々増えたことに伴い職場でのトラブルも若干増えたのも事実。そのような時は支援機関の力を借りることが、お互いにとって一番の解決方法だと言えます。「実際の現場では、当事者同士での解決が難しいときもあるので、そこは今後も継続的に気をつけていきたいところです。ここ数年は、『サポートネットすまいる』と連携するようになって支援員の方々が何度も足を運んでくれますし、お話しの中で私たちが学ぶことが沢山あると感じています。」



知的障がいの方が中心となる部署「スマイル工程」



組立課で使用する部品の前工程を担当





“一人ひとりを見つめ、
誰もが働きやすい職場へ”

障がい者を雇用するにあたってポイントとなるのは、業務の切り出し。また、人それぞれ障がいの特性や程度が違うので、仕事内容の見極めも重要だといえます。

「雇い入れについては、最初に職場実習を2週間していただき、本人の就労意思が固まればトライアル雇用へ進みます。そこで双方の話がまとまれば、まずは契約社員として採用されるというシステムです。実際の現場に入っていくと、障がいの有無を感じさせない働きぶりに驚くばかりです。新たに採用を始めた事務職で働いている精神障がい者の方の仕事は丁寧ですし、安全面の理由から採用を控えていたポデー課でも大丈夫ではないかと思いい新たに配属することが決まりました。よりよい企業へ成長するために、採用側も新たにトライする気持ちが必要なのかもしれませんね。」

一人ひとりに合った業務を見つけ出すため、精神保健福祉士や社会福祉士にも相談。社内全ての部署から聞き取りをして、作り上げた業務リストには、設計図の資料整理や、今は新型コロナウイルスに関する清掃関係など幅広い分野が挙がっており、ますます可能性が広がっています。

「障がい者雇用のゴールは『企業の法定雇用率達成』ではなく、会社や周りの従業員が障がいに対する理解を持ち、健常者と障がい者が相互に助け合うようになることだと考えています。今後も、他企業

の取組などを情報収集し、社内で共有させていいただきながら、もっと障がい者の方たちが働きやすい環境を整えていきたいと考えています。」

社員でも一部の人ができない繊細な作業を任せられている大隈翔太さん。以前勤めていた会社を退職した後、『サポートネットすまいる』で作業実習や自身との向き合い方などのメンタルコントロールを学び、3年前にダイハツ九州に就職しました。現在は、車のアンテナフィルムを貼る作業や部品出し業務に従事。公私共に安定した生活を送れるようになったという大隈さんのこれまでの経緯、職場や生活面での様子をお聞きしました。

■ダイハツ九州に入社した経緯を
教えてください

以前も車の部品関係の会社で働いていましたが、業務内容もハードで大変だったことから退職しました。その後『サポートネットすまいる』に相談してダイハツ九州を紹介してもらいましたが、また仕事がハードになるのではないかと不安がありました。ですが、ダイハツ九州の第一工場を見学することで自分にもできるのではないかと思いい就職を決めました。





大隈翔太さん
-Shota Ookuma-

数年前からメンタル面の不安を抱え、地域総合支援センター「サポートネットすまいる」で作業訓練を重ね、「ダイハツ九州株式会社」に入社。多くの関係機関のサポートを得て一般就労という目標を果たし、現在は心身共に安定した生活を過ごしています。

■働く上で気をつけている事は？
入社して最初の方は業務や環境にも慣れなくてイライラしたり、注意されるとカッとなったたりすることがありました。一時は辞めようかなと思ったこともありましたが、『サポートネットすまいる』に相談したり、薬を調整して乗り越えることができました。日頃から、自分が言われていることを少し客観的に捉えるようにして、冷静になるように気をつけています。

■入社時、イライラしたり感情のコントロールが難しいと感じたのはどのようなときでしたか？
僕の場合は人の笑い声です。遠くで笑い声が聞こえても自分が笑われているような錯覚に陥ることがありました。でも今は寮に帰って好きなゲームをしたりリストレスを発散できるようになって、『サポートネットすまいる』に相談することが少なくともなくなりました。元々、自分に障がいがあると診断を受けたのは今から5、6年ほど前。それまでは普通に健常者として暮らしていたので、まず自分が障がい者だと受け入れることが難しかったです。

■どのようにして受け入れることができましたか？
自分が障がい者と診断を受けて、最初はどうしようかと正直焦りました。でも『サポートネットすまいる』へ相談に行った時に、若い人や子どもたちが沢山いて、自分がここに居ても大丈夫なんだと感じて気が楽になりました。それから少しずつ受け入れられるようになったんです。

■これからの夢や目標を教えてください
とにかく何事も継続することです。仕事はもちろん、生活面でも休日に美味しいものを食べに出かけたりするのが好きなので続けていけるようにしたいです。あとはしっかり体調管理をしていければと思っています。



職長の中尾佳裕さん



中尾職長の指示を受ける大隈さん



中尾職長の指示を受ける大隈さん

職場をともにする上司の中尾佳裕職長は、「障がい者の方と働くのは初めての経験だったので、最初は手探り状態でした。でも大隈さんと接する中で、私も周りの社員たちも理解し学んでいると思います。障がいを持つ方と一緒に働くためには、こちらから歩み寄るばかりではなく、本人も社会でちゃんと働いていけるようにこちらに歩み寄り、そんな距離感が大切だと感じています。大隈くんはフィルムを貼るのがとても上手です。一見簡単そうな作業ですがそうではなく、手先が器用なので私たちよりも美しく仕上げています。大隈くんが休みの日は少し困るほど、今ではうちの立派な戦力です！」
障がい者という診断を受けてから、一般就労するまでの大隈さんの数年間の道のりは誰もが想像できるものではありません。でも今、こうして自らを客観的に見ることができ、会社の貴重な戦力となるまでに大きく成長できたのは、自身の努力と周りのサポートがあってこそ。お互いを想い、ともに歩むことで人は強く

なれるのだと思います。周囲のアドバイスや思いをしっかりと受け止め、逃げずに自らと向き合ってきた大隈さんの真摯な姿勢は障がいを抱える方だけではなく、働く多くの人たちに希望や勇気を与えてくれるのではないのでしょうか。

ダイハツ九州株式会社
〒879-0107 大分県中津市大字昭和新田1番地
TEL:0979-33-1230
<http://www.daihatsu-kyushu.co.jp>